

2009年  
3・4月号

# TOKYOタイムズ

トキオ

NO. 89  
岩本工業 (株)

ホームページ <http://www.iwmt-kg.co.jp/>

Eメール: [iwamoto@iwmt-kg.co.jp](mailto:iwamoto@iwmt-kg.co.jp)

## 日本の星 (スター) トヨタが・・・は不死鳥です!

H21年 3月 吉日 岩本 博之

製造業のスターである天下のトヨタさんが赤字になるとは、誰も予測し得なかった非常事態ですね。

昨年秋の正に直下型地震・・・世界全体が天災に遭った感じです。只この状況が日本国民には政治の閉塞感と共に自信喪失のWパンチの如く個人消費に大きく響いています。しかしながらパンデミック (伝染病の世界的流行) や武力戦争のような人的被害はなく、是をよしとして環境を配慮した正常な再生経済 (青い地球の維持) 構築が出来れば素晴らしい機会 (チャンス) だと思います。サブプライム問題等は確信的詐欺 (L&Gと同等) 行為であり、その実行者は心の貧しい生活を送っているのは間違いありません。

政治は兎も角として、自身を取り戻す根拠は世界経済 (貿易) が縮小する中「輸出依存」の誤解を認識すれば、この厳しい冬も乗り切れます。「依存度」の高いのは中国・韓国・ドイツで40~37%。2007年統計では日本15%前後、(借金経済) 消費大国アメリカは9%。過去50年前からの推移では10・12・15・11%から今日に到っております。確かにアメリカが不況になると大きな影響は否めませんが、30年前のウェート40%から22%と減少し、中国向けが14%、NIES23%、ASEAN12%と分散しています。「円高」を追い風にしましょう! そもそも国の信用力が為替「円」の値を決めます。原材料は安く入り、海外企業買収M&Aの好機到来、それこそ日本的経営を注入し地に足の着いた雇用を世界標準に!

## 60年を迎えて 全員で不況の荒波を乗り切ろう

高木 範夫

平成21年2月11日で当社は、創立60年を迎えることが出来ました。これもご支援頂きましたお客様をはじめ協力企業の皆様、社員のお陰と感謝いたしております。振り返りますと、色々な事が走馬灯のように思い浮かびます。

昭和42年に出入業者の不注意による失火で、工場・住居を全焼し再起不能の状態に陥りましたが、復興に向け社長 (現会長) の強い熱意と数多くのご支援を頂き再建出来た事や、昭和49年にはオイルショックによる大不況、平成4年バブル崩壊の煽りを諸に受け長きに渡る仕事の激減に合い耐え貫いた事が思い出深く蘇ります。60年前、創設者の熱意・誠意・創意の精神と緒先輩たちが長きに渡り築き上げられた、人としてのあり方、考え方、モノ作りの奥深さ (技術・技能・ノウハウ) など製造業に携わる基本となつて、岩本独自の文化が今日にこうしたカタチ (DNA) で生き継がれています。私も、昨年12月で60歳の節目を迎えました。長い人生の中で学んだ数多くの失敗や成功による経験は、お金や時間では得られないものがありこの事が自分自身の自信に繋がりました。近年では、生産設備 (複合機・NC化) が充実した事により製品も複雑になっており、教え方も変わって来ているように思います。100年に一度と言われる経済不況ですが今こそ真価が問われる時でもあります。今まで積み重ねて来た力量 (固有技術・・・技術・QC・改善) を発揮し、お客様の要求 (Q高品質・C低コスト・D短納期 S安全重視) に全員で迅速に対応し岩本の持ち味 (ノウハウ) を活かし次に訪れる春に備え体力作り (技能検定・資格試験・スキルUP) を図り、この難局を乗り切って行きましょう。

3月

4月



SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30	1	2
													3

## 全社員参加 社内研修会

2月11日 松任市民交流センター

品質保証部 課長 鎌田 透

創業60年の記念日に、第1回のセミナーが行われました。午前には中山会計の小嶋様から「会計・営業・製造」の3つの輪が持つ重要性と「売り上げと利益」について説明していただき、最後に岩本工業の「強み」と「弱み」についての座談会も開かれ色々な意見に対し経営コンサルタントならではの親身なアドバイスを受けました。

午後からはコマツの品質保証部、中村様にお越し頂き「品質と信頼性」「The Komatsu Way」のあり方、不具合の真の原因等、事例をあげながら説明していただきました。お二人とも奥深い講義をされましたが、話しかけるような語り口で聞き易く様々な事が一層理解出来たと思います。これからもこのような場を設けてもらいたいです。



「モラル向上と会社をとりまく環境」  
について話される小嶋様



「コマツ way と品質取組の重要性」  
について話される中村様

## 第5077回 QCサークル北陸支部躍進大会

### JHS部門運営事例選抜大会 (併催) 見学報告書

第一係 嶋田 健一郎

2月6日小松市民センターにて行なわれましたQC大会は、JHS部門運営事例発表が2サークルと改善事例発表が7サークルありました。JHS部門では新潟県を中心として62店舗のスーパーマーケットをチェーン展開している会社の発表は、サークルメンバー17名中15名がパートタイマー2名がアルバイトのメンバー構成で、勤務時間が異なり全員参加が難しい中での運営手法を発表されました。その中で「連絡ボードに活動記録を掲示する事」で、参加できなかったメンバーとのすれ違いを克服する工夫をしていた。このアイデアは小さな工夫だが、サークルを上手く運営していくには情報の共有は大切な事だと思います。またこのサークルの頑張りが会社全体に刺激を与え他のサークルにQCの大切さを改めて教えたそうです。

改善事例発表では、コマツ金沢工場のサークルを含む6サークルの発表がありました。コマツ様の発表では大型サーボプレスベッドの出来高向上について、現状の1.6倍の生産台数を目標に上げ、特に工程分割による改善ではこれまでとは逆転の発想で工程を集約せずにあえて工程を分割する改善で問題を解決されていました。従来の概念にとらわれる事なく問題を解決する良いお手本でした。私がかつとも印象に残っているのは、(株)共栄電子様の不良率低減をテーマに活動した発表です。カーナビや横すべり検知、サイドエアバック等のセンサーを生産しており、不良品流出は事故に直結します。この不良の内容はフレキ半田付けの無い物が月に500ヶ程発生しており、月に約10万円の損失を出していました。この不良を撲滅するために、全工程を検証し一つの動作に対して解析をVT R調査まで行なう徹底ぶりでした。その結果ライン自体の動作に意味がない作業がある事に気付き、不良発生を押しさえ込む結果が出されていました。この発表を聴いて感じたのはやはり「QC活動を進める上で現場が全てだ」と言う所です。また改善活動にかける情熱や執念が聴いている私にもすぐ伝わってきました。何事も諦めたらそこで終わってしまい先に進みません。私自身これまでの活動を振り返ってみると諦めてしまった点が多かったと思いますが、これからは粘り強く狙った獲物は逃さないと言う気持ちで活動をしていきたい。今回の改善事例を参考にして「改善する楽しさや喜び、絶対に諦めないこだわり」の大切さを持って、今後の活動に活かしていきたいです。